





# 入山炭鑛の遺族に

## 今日御下賜金傳達

### 兩陛下の大御心に遺族感泣

既報天皇、皇后兩陛下には入山炭鑛第六坑内のガス爆發による犠牲者同職技師工學士原義雄氏外四十八名の遺族並に重傷者引地進外二名に對し御内帑金を御下賜あらせられたがこれが傳達式は十日午後一時間から新緑に包まれた入山山神社境内の神苑俱樂部に於て伊藤知事臨席のもとに厳かに舉行された

定刻振鈴によつて各遺族重傷者代理來賓等が設け

の席に着席間瀬社會課長學式の辭を述べ次いで伊藤知事の手より原義雄氏春子未亡人より順次四十八名の遺族並に重傷者に御下賜金傳達終つて知事は兩陛下の御聖恩に就て全員に訓辭を對し

吉田入山所長は感極まる答辭を述べたが最後に原春子未亡人は拜受者を代表し民草に迄垂れ給ふた大御心に哀懼と感激の涙をもつて答辭を述べ二時半式を閉じた

## 今日平町上空を

### 海軍機旋回

#### 平町出身の甲高二等兵曹

#### 空から郷土へ敬意

空に一片の雲なき快晴平町上空へ今日午後一時半頃爆音も勇ましく突如として二臺の海軍水上機が訪れうち一臺は大膽な低空飛行に移り約五分間に亘つて平町上空百メートルの低空を縦横に旋回した後谷川瀬方面へ機影を没したが同機より落された通信筒によつて同機の操縦者は平町七軒町某商店員甲高榮一氏の實弟で目下霞ヶ浦海軍航空隊の操縦術練習生教員二等航空兵曹甲高

#### 正木校長の忤

親にまさる基の

キャプテン!!!

▽……正木警女校長は初段に二目と噂される位の相當の基客であるがさすがに血筋は争はれないもので長男の武雄君は帝大團扇部の主將でその弟さんは慶大の

## 平署でも

### 町の紳士一齋檢舉

#### 今朝午前五時を期し

#### 九名を一網打盡に

平警察署では管内各町村に於いて巧に法網を潜り恐喝詐欺、横領、婦女誘拐等を働

く所謂街の紳士狩を行ふべく待期中であつたが本十日午前五時縣下一齊に行ふ指令に接したので柴田署長は司法主任以下全署員を動員して豫てブラックリストの人物である小名濱町下明神町立花美好(三)を初め内郷村大字宮宇臺四三蒲生正利(三)小名濱町下明神町深谷卯三郎(三)江名町大字仲ノ作字川岸二四飛田三郎(三)好間村大字北好間字堂田三

## 植田の中山組から

### 三百圓恐喝

#### 物凄いやんぐの一味

別項平署のギャング狩で檢擧された一味のうち深谷卯三郎(三)は四月中植田町山田屋旅館の毆込み事件に味方の凶刃に殺された茨城縣松岡町生れ土工齊藤義雄(三)は自分の乾分であると

## 植田署で

### 九名檢舉

縣下一齋に行はれて暴力團狩に植田署では平署に檢擧された深谷一派と連絡を保持中山吉之助氏を恐喝した蛭田某外九名を檢擧留置

## 勿來在の慘劇

### 内妻を半殺し

#### 痴話喧嘩が昇じて

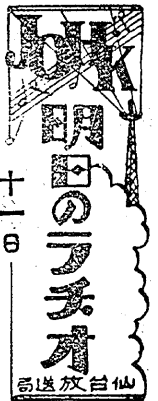
勿來町宇關山内山林に居住する炭焼内田親吉(五)は去る八日午前九時半頃内縁の妻早坂ハツエ(三)を木挽用の斧で兩足首手腰等を滅茶々に打ちのめして瀕死の重傷を負はして逃走したが同日午後四時植田署に自

## 鯉の不漁は

### 何が原因だと

#### 縣水産試験場で研究

鯉漁に向つた郡下の遠洋漁船は千葉縣野島沖を初め各海區で見事な鯉の大群に遭つたが餌の餌では容易に釣れず寶の山を見乍ら大部分は不漁續きにガツカリし



明日のラジオ  
今夜は西東の風  
明日は南東の風  
雨模様

## 今晚の部

- 後六〇〇 子供の時間
- お話し「やさしい日時計の作り方」本間清人
- 後六二五 基礎英語講座
- 岡倉由三郎
- ◎青年の夕◎
- 後七三〇 講演「時代と青年」關屋龍吉
- 後八、一〇 詩吟 寄家兄
- 言志山田積善
- 後八、二五 朗誦 一、詩吟
- 二、眞白き富士の根
- 外鶴谷眞太郎伴奏 マンドリン 富田艶子
- 後八、四〇 新勢勸歌わたるそよ風 獨唱 金森愛子 水野康孝
- 後八、五五 浪花節「片羽鳥」伊太郎 龍甲齋虎一丸
- 後九、三〇 時報 ニュー・ス 氣象通報 番組豫告

## 明日の部

- 前六、三〇 基礎獨語講座
- 武内大造
- 前七、〇 朝の修養 四
- 攝法と人類愛の究竟
- 前一〇、〇 幼児の時間
- 唱歌お馬さん道子
- 前一〇、三〇 家庭講座
- 「消化器傳染病に對する心得」高木逸齋
- 後〇、五〇 ハーモニカとマンドリン「ハーモニカ獨奏行進曲 雙頭の鷲の旗の下」吉岡武雄 二 マンドリン合奏ネグロと踊る中野二郎外
- 後二、〇〇 小學生の時間
- 「つばめ」平井美奈子
- 二、四〇 征衣上途櫻井忠温
- 後六、〇〇 子供の時間
- 童話「劇日の丸の旗」神戶童話劇協會
- 後六、二五 青年の時間
- 「至誠の人西郷隆盛」井野邊茂雄
- 後七、三〇 趣味講座「趣味から見た古銭」中村不折
- 後八、〇〇 常磐津初戀千種の濡事常磐津千歳太夫
- 後八、四〇 箏曲「那須野」高橋榮清
- 後八、五〇 歌謠物語深雪物語 栗島すみ子



# 明治太平記

(無断断断)  
上及上演

(作) 寺島征史  
(監) 野口松世

第四百十五回

情艶(十二)

「あら、嘘ですつて?」  
「さうさ。大久保暗殺と云ふ小氣味のよい仕事を投げ、パークスの寵愛をうけにくいなア、そんな法があるものかい嘘だ。パークスの所へ来たのは、ほかに理由がなくてかなふものか?」  
「まア……妙ね」

良順はあでやかな指を重たげに傾けて嬉笑した。  
「妙だと、怪しむのは俺の方だ。さア、大久保暗殺より面白い。そのパークスへ乗りかへた理由を話せ」  
「困つたわねえ。だつて、江藤さんが、その方が面白いといつてすゝめて下つたものですもの……」  
「江藤が?……いや、ほかにある」  
「困つたわねえ」  
「早く云つちまへ」  
「ぢや、いふわ、怒つちやいやですわ。實は、あなたの……」  
「なに?」  
「あなたの助太刀商賣を、借用しましたの」  
「えッ」  
「可愛想なおとわさんの爲めに虎穴に入つたわたい」

「おとわ?おとわを、どうしてお主知つて居るのか?」  
市之丞は、おとわの幻影を空に描えて不思議な焦燥を感じた。  
「數寄屋河岸の、辻君の頃」



おふくの良順は、あでやかに笑つて見せた。  
「成程、しておとわは今どこに居るか、それを聞かしてくれ、良順」  
「……」  
良順は何故か口ごもつた  
「やはり、横濱に居るのかそれとも……」  
「済みませんが……」  
「なに?」  
「それだけは、聞かずに下さいまし」  
「なぜだ?」  
市之丞は、けはしいそして悲しい眼をして、良順の

からようく存じてました」  
「お主も、その辻君の一人だつたのか?」  
「はい、天しく浪人に見出されるまでは、やはり辻君でしたの」  
「男のくせによくも辻君ができたのう」  
「だつて、らしやめんじやへなられますわオホ、」

次に洩す言葉を待つた。  
「何故でもないんですけど……」  
「横濱か、東京か、どこに居る?」  
「はい、どうか、それだけは……」  
良順は哀訴の眼を向けた  
「どうしても云はぬな、良順お主はこの……を恐れて居

るのだな」  
「はい」  
「はいと、ぬかしたな」  
「おとわと、あたしとは」  
「なに」  
「済みませんが、戀仲でございます」  
「うむ」  
市之丞はうなつた。  
「辻君時代から、互ひに」  
「いや、もう聞かない、良順、それでお主おとわ共にウエルズをねらつて居るのだな」  
「はい」  
「ウエルズはどこだ?」  
「このホテル館へ歸つて来て居ります」  
「うむ、横濱から歸つて来たのか、ようし……」

## 是非!

御融通には御用命下さい  
萬事便利な御相談に應じます



三井質店

平四・電六〇六番

## 外科 内臓外科

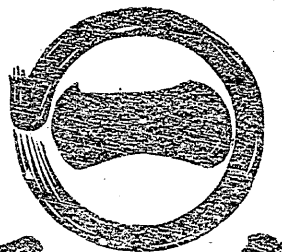
病室完備

學醫博士 諸橋鐵彌

新川町二七 (電四六四)

## 力ヒ焼 産雲丹みそ

新發賣



魚問屋

最優最志 大賀平 本盛目 命盛目 代理盛目 店盛目

## 内科

川井内科診療所

川井 安子

平南町(電話二四三)

## 藤沼醫院

平町・紺屋町 電話五〇七番

## 内科 外科 一般

## 金成醫院

金成 忠義 平鎌田町(電三五八)

## 青葉にむせぶ行樂は……

絶對他に誇る幾多の経験コース  
定評ある行者の良きガイド  
……先づプランを御相談致しませう……

東京鐵道局公認  
不二タウナー  
電話三二番

△東北六縣走破・富士五湖箱根伊豆半島一周等は  
經驗コースとして獨り吾が保持するところ也▽